

副腎腫大，満月様顔貌等を指摘され，Cushing 病を疑われたため12月24日に内科入院。ACTH は抑制，cortisol の日内変動は消失していた。デキサメサゾンには抑制されなかった。メトピロン負荷により 17O HCS，17 KS は増加したが，ACTH は抑制された。以上より，ACTH 非依存性の両側副腎皮質過形成による Cushing 症候群と診断した。最近報告されている ACTH 非依存性副腎皮質大結節性過形成，Primary pigmented nodular adrenocortical disease (PPNAD) 或いは Gastrin inhibitory polypeptide (GIP) との関連が示唆され，興味深い。

8) 自然破裂をきたした副腎腫瘍 (Cushing 症候群) の 1 例

齋藤 俊弘・車田 茂徳
川上 芳明・郷 秀人 (新潟大学泌尿器科)
内山 武司 (水原郷病院 泌尿器科)
植木 一弥 (同 内科)

症例は34歳の女性。1992年頃から顔貌の変化(満月様)に気付いていた。1994年2月22日突然の左背部痛が出現し、2月24日に水原郷病院に入院した。Hb 9.4 g/dl と貧血を認め、CT で左後腹膜血腫と副腎の腫瘍を認めた。2月26日には Hb 5.6 と貧血が進行し、2月27日当科に転入院した。高血圧、低K血症、満月様顔貌を認め、ACTH の低下および cortisol の上昇を認めた。左副腎腫瘍によるクッシング症候群の自然破裂と診断し、2月28日に左副腎摘除術を行った。病理組織学的には副腎皮質腺腫であった。術後 cortisol は正常化し3月13日退院した。クッシング症候群の副腎腺腫が自然破裂を起こした例は我々の検索できた範囲では1例も見当たらず、きわめて稀な症例であった。

9) 軽症高血圧に対する kallikrein 経口剤の効果

一尿中 Na 排出量とプロスタグランディンに対する影響—

中村 宏志・中村 典雄 (中村医院 内科)
中村 隆志 (同 薬局)
伊藤 正毅 (新潟大学第一内科)

【目的】軽症高血圧患者に Kallikrein 経口剤 (Ka 剤) を長期投与した場合に、降圧効果が得られるかと、Na 利尿とプロスタグランディンに対する影響が関係してい

るかにつき検討した。【方法】非肥満の軽症高血圧患者 (収縮期 140~165 mmHg, 血圧 90~96 mmHg) 30名を、A群 (コントロール), B群 (Ka 剤 75 U/日), C群 (Ka 剤 150 U/日), 各10名に分け、前と1, 3ヶ月後に、血圧、尿中 Na, PGE₂ を測定した。【結果】平均血圧は、A群に比して、B群の3ヶ月後、C群の1ヶ月後と3ヶ月後で有意に下降していた。FENa はA群に比して、B群の1ヶ月後、C群の1, 3ヶ月後で有意に増加していた。平均血圧と FENa の間には、 $r = -0.719$ ($p < 0.001$) の逆相関が認められた。尿中 PGE₂ 排泄量は1, 3ヶ月後で、B群、C群ともA群に比して増加傾向を認めた。【結論】軽症高血圧患者に対し Ka 剤を長期投与した場合に降圧効果が得られることが確認され、その機序として、Na 利尿の促進による可能性が高いと考えられた。

10) 高令ラット骨粗鬆症モデルにおけるエストロゲン・プロゲステロンの骨代謝に及ぼす影響

山本 泰明・倉林 工尚
八幡 哲郎・藤巻 和哉 (新潟大学 産科婦人科)
安田 雅弘・織田 憲一
田中 憲一

【目的】プロゲステロンが閉経後早期の骨代謝に及ぼす影響を卵巣摘出した高齢ラットを用いて検討した。

【方法】365日齢 S-D ラットを ① 偽手術 (Sham) 群 ② 卵巣摘出 (OVx) 群 ③ OVx+E 群 ④ OVx+P 群 ⑤ OVx+E+P 群 (各6匹) に分け、Sham あるいは OVx 施行後、③~⑤群は4日毎に Estradiol 0.05 mg または Progesterone 2 mg 皮下注。実験開始時および45日目に DXA 法 (QDR-1000/W) により第2~5腰椎骨密度と血中骨代謝パラメーターを測定、また二重蛍光標識後屠殺、第5腰椎非脱灰標本 Villanueva 骨染色、第4腰椎脱灰標本酒石酸抵抗性酸フォスファターゼ染色し骨形態計測 (実測倍率 304.7 倍) を行った。

【結果】(1)骨密度は OVx 群、OVx+P 群で有意に減少 (2) OVx 群、OVx+P 群、OVx+E+P 群は Sham 群、OVx+E 群と比べ高 ALP の傾向 (3) 骨形態計測では吸収面、破骨細胞数は Sham 群に比べ OVx 群、OVx+P 群で著明に増加、E 群と E+P 群は有意差なし。骨形成速度、二重標識面は Sham 群に比べ OVx 群、OVx+P 群で増加し OVx+E+P 群は OVx+E 群に比べ高値。【結論】高齢ラットに対する卵巣摘出後の P 単独では骨代謝回転の抑制は認められなかった。し

かしE + P併用投与はE単独投与に比べ骨形成能の亢進が推察された。

11) 早発閉経・Turner 症候群婦人におけるホルモン補充療法の骨代謝・脂質代謝への影響の検討

倉林 工・山本 泰明
八幡 哲郎・東條 義弥 (新潟大学)
本多 晃・田中 憲一 (産科婦人科)

当科の『いきいき外来』で6カ月以上ホルモン補充療法(HRT)(Kaufmann療法)中の20~40歳の早発閉経(POF)婦人16例,Turner症候群(TS)婦人10例,対照群41例について,HRTが骨代謝・脂質代謝に及ぼす影響について検討した。

POFやTSでは治療の有無にかかわらず対照群に比べて有意な低骨密度を示すが,HRT開始後徐々に増加し18カ月以降各々2%,3.8%の有意な増加を認めた。POFやTSでは対照群に比べ総コレステロール,LDLコレステロール,HDLコレステロールの高値を示し,長期的なHRTによりHDLコレステロールの上昇,LDLコレステロールと動脈硬化指数の低下を示した。末梢血リンパ球サブセットは,POFやTSとも無治療群はCD3,CD4およびCD4/CD8比の低値を示し,治療によりやや改善傾向を示した。

POF,TS婦人は,骨量減少症・高脂血症のハイリスク群である。HRTはこれらの婦人の骨代謝・脂質代謝の改善に有用である。2~3年以上の長期的な効果については今後の検討を要する。

12) 当院に於ける骨粗鬆症治療の現状

—平成4年9月から5年3月までの患者調査より—

所澤 徹(木戸病院整形外科)

平成4年9月から5年3月までに骨密度検査を行った患者全員を対象にして調査を行った。対象患者数は234例で,うち正常者96名,骨粗鬆症患者138例であった。女性患者を中心に年齢順骨密度曲線を作成した。正常群と骨粗鬆症群では約15%の骨量の差を認めた。

また,骨粗鬆症群はコンピュータデータとの比較では正常値よりやや低い値を示した。

骨粗鬆症治療群ではホルモン療法とビタミンD使用群ではホルモン療法の成績が優秀でかつ結果も安定していた。ビタミンD使用群では結果が安定していなかった。しかし,アルファロール,ロカルトロール交互投与群ではホルモン療法に匹敵する結果が得られていた。

II. 特別講演

「骨粗鬆症の病態と治療」

—エストロゲン・プロゲステロンの治療効果を中心として—

神戸大学第三内科助教授

深瀬 正晃 先生